

運動器超音波診療は、近年の超音波診断装置の高性能化や携帯型機器の普及に伴い、整形外科の日常診療において急速に発展しています。超音波検査は、X線像では評価が困難な軟部組織や末梢神経、血流、滑膜病変などをリアルタイムかつ動的に観察できることに加え、ベッドサイドや外来で繰り返し施行できるという大きな利点を有しています。また、超音波ガイド下インターベンションは、関節内注射、神経ブロック、ハイドロリリース、穿刺・ドレナージなどに広く応用され、安全性と確実性の向上に大きく貢献しています。

本テーマは2015年に『整形外科』（増刊号）で取り上げられて以来、約10年ぶりの特集となります。この間、診断技術やインターベンションは大きく進歩し、エラストグラフィやAIを活用した画像解析などの新技術も臨床応用されるようになりました。さらに、スポーツ整形外科、外傷、小児整形外科、リハビリテーションなど幅広い分野で超音波診療の活用がすすみ、その役割はますます拡大しています。

本号では、超音波診断の基礎から各種疾患に対する実践的な診断法、超音波ガイド下治療、リハビリテーションへの応用、新技術や今後の展望まで、運動器超音波診療の最新知見を幅広く取り上げます。従来の知識を整理するとともに、近年発展の著しい新技術や臨床応用についても積極的に紹介し、日常診療に役立つ実践的な一冊としたいと考えています。運動器超音波診療のさらなる発展に資する最新の知見を広く募集いたしますので、奮ってご応募いただければ幸いです。

募集細目（例）

I. 総論

1. 超音波解剖
2. プローブ操作と画像描出
3. ドブラシグナルによる血流評価
4. 動的評価
5. 最近のエコー機種・機能

II. 診断

1. 腱・靭帯病変の超音波診断
2. 筋損傷の超音波診断
3. 関節・滑膜病変の超音波診断
4. 骨・軟骨病変の超音波診断
5. 末梢神経障害の超音波診断
6. 血管病変の超音波診断
7. スポーツ障害に対する超音波診断
8. 小児整形外科に対する超音波診断
9. 腫瘍・腫瘍性病変に対する超音波診断
10. 救急・外傷診療における超音波診断

III. 超音波ガイド下治療

1. 超音波ガイド下ハイドロリリース
2. 超音波ガイド下神経ブロック
3. 超音波ガイド下高周波バルス療法・熱凝固療法
4. 超音波ガイド下 barbotage
5. Percutaneous ultrasonic tenotomy
6. 超音波ガイド下異物除去
7. 超音波ガイド下 pie-crust technique
8. 非観血的肩関節授動術（サイレントマニピュレーション）
9. 超音波ガイド下簡易動注療法
10. 超音波ガイド下穿刺・ドレナージ・生検
11. 超音波併用手術

IV. 理学療法・リハビリテーションへの応用

1. 理学療法・リハビリテーションにおける超音波評価
2. 動的評価による病態把握
3. 超音波バイオフィードバック
4. 運動療法の効果判定

5. 再発予防における超音波評価
6. 医師・理学療法士連携への活用
- V. 部位別疾患

1. 頸部・体幹

- 1) 頸部神経根症
- 2) 胸郭出口症候群
- 3) 肩甲骨神経障害
- 4) 副神経障害
- 5) 腰背部痛
- 6) 仙腸関節周囲痛

2. 肩

- 1) 腱板断裂・腱板症
- 2) 石灰沈着性腱板炎
- 3) 凍結肩
- 4) 上腕二頭筋長頭腱障害
- 5) 肩峰下滑液包炎
- 6) 肩甲上神経障害
- 7) 腋窩神経障害
- 8) 投球障害肩

3. 肘

- 1) 外側上顆炎
- 2) 内側上顆炎
- 3) 野球肘
- 4) 尺骨神経障害
- 5) 後方インピンジメント
- 6) 肘関節滑膜炎

4. 手・手関節

- 1) 手根管症候群
- 2) 肘部管症候群
- 3) ばね指
- 4) De Quervain 病
- 5) TFCC 損傷
- 6) ガングリオン
- 7) 手指腱損傷
- 8) 手指靭帯損傷

5. 骨盤・股関節・大腿

- 1) 変形性股関節症
- 2) 腸腰筋腱障害
- 3) 大転子部痛症候群
- 4) Deep gluteal syndrome
- 5) 外側大腿皮神経障害
- 6) 股関節唇損傷

- 7) 大腿部肉ばなれ
- 8) ハムストリング障害

6. 膝

- 1) 膝関節水腫・滑膜炎
- 2) 変形性膝関節症
- 3) 半月板損傷
- 4) 側副靭帯損傷
- 5) 膝蓋腱炎
- 6) 腸脛靭帯炎
- 7) 鷲足炎
- 8) 伏在神経・膝蓋下枝障害

7. 下腿・足・足関節

- 1) アキレス腱症・アキレス腱断裂
- 2) 足底腱膜炎
- 3) 足関節捻挫
- 4) 腓骨筋腱障害
- 5) 後脛骨筋腱障害
- 6) 足根管症候群
- 7) Morton 病
- 8) シンスプリント
- 9) 疲労骨折
- 10) 有痛性外脛骨

VI. 新技術・教育・未来展望

1. 人工知能（AI）と運動器超音波
2. エラストグラフィ
3. ドブラ評価
4. 3D 超音波
5. 携帯型超音波装置
6. 遠隔診療・遠隔教育
7. シミュレーション教育
8. 若手医師・理学療法士への教育
9. 超音波診療の保険診療・制度上の課題
10. 運動器超音波診療の今後の展望

VII. その他

1. 超音波診療におけるピットフォール
2. 超音波で評価しにくい病態
3. MRI・CT・X線検査との使い分け
4. 教育的症例・失敗例
5. 局所麻酔中毒の診断と対応
6. エビデンス構築の課題

※上記募集細目以外でもぜひご応募ください

『整形外科』編集委員会

ご応募くださる方は、タイトルおよび要旨（1,000字以内）を、2027年2月末日までに下記『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係宛にお送りください（E-mailでも受け付けます）。2027年3月末日までに編集委員会で採否を決めさせていただきます。その後ご連絡いたします。なお、ご執筆をお願いする場合の原稿締め切りは採用決定から2ヵ月後（2027年5月末日）、発行は2027年9月予定となります。

送付先：☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42番6号

株式会社南江堂 『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係

(TEL 03-3811-7619 / FAX 03-3811-8660 / E-mail: pub-jo @ nankodo.co.jp)

＜『整形外科』編集室＞